

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名（大原野中学校）

教育目標

『深い知性と 豊かな感性 とたくましい身体を備え、主体的な成長を目指す生徒の育成』

◇目標に向けて、主体的・対話的な学びと学習意欲を身に付けた生徒の育成

◇実社会や実生活に生きて働く力を身に付けた生徒の育成

◇他者とのコミュニケーションを図り、協働して問題解決に当たれる生徒の育成

◇主体的に自分の健康に関心をもち、主体的に健康管理していく力を持つ生徒の育成

◇自己肯定感・自己効力感を持ち、人生を切り拓くことのできる生徒の育成

◇公徳心を身に付け、奉仕活動などの体験活動を通して自己有用感を獲得した生徒の育成

◇自分を大切にし、他人を思いやる豊かな心を持った人間性あふれる生徒の育成

◇地域や郷土を愛し、自らの個性を生かして、持続可能な社会を担う生徒の育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し コロナ禍で協働的な学びにも配慮が必要であった。しかしながら、校内研究で協働的な学びをテーマに進めてきたことで、主体的に学ぼうとする姿勢を育むことが生徒の身についてきていることがアンケートの結果から読み取れる。しかし、それが学力向上にまだ結びついていないところが課題である。次年度の教育目標にも引き続き加えたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 感染症拡大防止を第一に考えて進めていただいたことに感謝したいとともに、子どもたちが安心して学び合える集団づくりを進められるように、生徒・保護者・地域・教職員の連携をしっかりとて支援していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年 11月 2日	学校運営協議会
最終評価	令和3年 3月 5日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』**重点目標**

各教科・道徳科・総合学習等、あらゆる学習活動を通して「主体的・対話的で深い学び」ができるよう、指導方法の工夫、充実を図り、評価・評定についての研究を進める。

具体的な取組

- ◇すべての生徒がわかる授業を実践する。
- ◇「生きる力の育成」を十分に踏まえた年間学習指導計画・評価計画の策定、及びパフォーマンス評価等の評価方法の開発や教科指導力向上のために教科会や教科主任会の充実に努める。
- ◇毎時間の授業において本時のねらいを明示する。そのことによって、生徒が目標をもって授業に臨めるようにし、指導の最後には振り返りを行わせ、自己評価力の向上と学習内容の定着を図る。
- ◇各教科等において、「生徒の協働的な学び」を通して、全員参加の授業を実現し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- ◇教科等の授業や総合的な学習の時間において、身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用する場や、さらに深化させた探究活動の場を設定した授業を構成することに努める。
- ◇各教科等において言語活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。そのために学校図書館をすべての授業や教科で活用し、学び方を広く身に付けさせるとともに、言語活動の活性化を図る。
- ◇日常的で、生徒の身近な実際的な生活問題を取り入れた授業を構成することに努める。
- ◇目標と指導と評価の一体化を図り、授業や指導の改善に努める。
- ◇生徒の自主的・主体的な学習態度の育成を目指し、家庭学習の充実を図る。
- ◇キャリア教育の視点から進路指導や職業体験等をとらえ、生徒の社会的・職業的自立を目指すとともに、すべての生徒の進路保障に努める。
- ◇特別な支援を要する生徒に対する「合理的配慮」の充実を図る。
- ◇社会的・個別的課題等のある生徒一人一人に、個に応じた取組を実践する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒の話す、聞く態度の変容
- ・各種テストからの分析の結果
- ・評価アンケート（家庭学習の習慣が身についていますか。読書の習慣が身についていますか。など）

中間評価

各種指標結果

JPについては今回実施の方法が例年と異なり、全市平均との比較はできていない。結果より漢字の読み書きと説明的文書の読み解きが苦手であるとわかった。算数は速さの計算と場合の数が苦手であるとわかった。

Pre 1は全市平均より国語-4.1 ポイント、社会-3.5 ポイント、数学-3.5 ポイント、理科+0.3 ポイント、英語-0.8 ポイント。総合では-2.4 ポイント。

1stは全市平均より国語-2.6 ポイント、社会-3.6 ポイント、数学-1.3 ポイント、理科+0.3 ポイント、英語+0.3 ポイント。総合では-1.6 ポイント。

全国学力学習状況調査は今回実施していない。

家庭学習の習慣化については、1年生が2、3年生よりも+13ポイントであり、全体では昨年とわずかながら上昇した。読書の習慣化については、ここ3年では最も低くなった。

自己評価

分析（成果と課題）

家庭学習の習慣化は確かな学力を身につけるために必要な条件といえるが、現在本校で取り組んでいる週末課題も成果に寄与していると考える。授業の中での学び合いがすぐに効果に結び付くものではないが、基礎学力が身についているという生徒が昨年度より+4.3 ポイントであった。しかし授業での達成感は全体では+5.6 ポイントであった。後期の評価が期待される。

分析を踏まえた取組の改善

	<p>生徒の評価を踏まえて、基礎学力の定着につながるような手立てを各教科で考えていく。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>生徒の話す、聞く態度の変容 ・各種テストからの分析の結果 ・評価アンケート（家庭学習の習慣が身についていますか。読書の習慣が身についていますか。など）</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校の取り組みについては十分やってもらっている。子どもたちの満足感がそれを表している。 勉強に関しては、「だいたいできている」でいいのではないかと思う。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>生徒の話す、聞く態度の変容 ・各種テストからの分析の結果 ・評価アンケート（家庭学習の習慣が身についていますか。読書の習慣が身についていますか。など）</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>Basic1 は全市平均より国語は 2.2 ポイントプラス、社会は 1.3 ポイントプラス、数学 6.1 ポイントプラス、理科は 4.1 ポイントマイナス、英語は 3.6 ポイントプラス。</p> <p>Pre2 は全市平均より国語は 3.8 ポイントマイナス、社会は 5.9 ポイントマイナス、数学は 3.8 ポイントマイナス、理科は 3.1 ポイントマイナス、英語は 0.5 ポイントマイナス。</p> <p>2nd は全市平均より国語は 1.1 ポイントマイナス、社会 7.4 ポイントマイナス、数学は 11 ポイントプラス、理科はほぼ同じ、英語は 2.7 ポイントプラス。</p> <p>各教科の授業を通じて、生徒同士による協働的な学びを展開しているところである。ただし、それが基礎学力の定着に必ずしも結び付いていないところに課題がある。今後、授業はもとより、理解度が不足している生徒への補習を設定していきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今の取り組みでは基礎学力の定着が不足している教科がある。そのため基礎的・基本的な知識技能が活用できるような授業を展開し、それを定着させる家庭学習の習慣を身につけさせ、生徒自身が学習の主体者として取り組む姿勢が向上していくように指導する。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>落ち着いた授業を進めていただいていることは感謝している。スマートホンの普及が中学生には良い影響よりもよくない影響が多くなっていて、学習に効果が見られないこともわかった。またコロナ禍でゲーム依存の傾向がある生徒も増えていることがわかり、家庭でもゲームや携帯電話などのツールの使い方のルールをしっかりしていきたい。</p>

（2）「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権教育を全教育活動の中に位置づけ、基本的人権の尊重や正しい理解、認識を培うとともに、自分も他人も大切にする生徒の育成に努める。 人権問題に対する正しい認識と鋭い人権感覚を深めるため、人権教育に関する研修と教育実践を積極的に進める。
--	---

具体的な取組

- ◇教育活動全体を通して、思いやりの心や命を大切にする教育の充実を図る。
- ◇行動目標としての「挨拶をしっかり行う・時間を守り大切にする・身だしなみを正しくする・掃除を励む・言葉づかいを正しくする（あじみそ言葉）」をはじめ、基本的な生活習慣や態度を身に付けさせる。
- ◇心の糧となる読書活動や校外文化活動・地域活動にふれる機会を積極的に推進する。
- ◇地域清掃等、地域と協力して、ボランティア活動の充実に努めるとともに、道徳教育・人権教育の充実を通して、他人や仲間の心の痛みがわかり、共に生きる心を育てる。
- ◇地域行事への参加を奨励し、地域の人々との望ましい人間関係の育成を図る。
- ◇学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動を通して、異年齢集団活動を活用し、社会性や協調性を育てる。
- ◇人の話をしっかりと聞き、お互いを高め合えるような人間関係を築こうとする態度を養う。
- ◇「生徒の協働的な学び」等を通してコミュニケーション能力を高め、共感的人間関係が築ける態度を育てる。
- ◇人権尊重の精神を日常生活に活かし、行動化できる生徒を育成する。
- ◇地域にある諸施設はもとより、多様な交流の機会や体験の拡大を組織的・計画的に推進する。
- ◇生徒・教職員・保護者等による具体的な行動により、人権尊重の意識の高揚を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・評価アンケート（進んで挨拶をしていますか。あなたは他人を思いやったり、親切にしていますか。地域の行事に参加していますか。ボランティアの積極的に参加していますか。など）

中間評価

各種指標結果

子どもの挨拶が進んで自ら出来ている割合が-3.6となり、挨拶の習慣が減少している。思いやったり、親切にしているという項目は-2.8であったが、3年間の中では大きな変化はない。

自己評価

分析（成果と課題）

今回は6月再開となり、挨拶の習慣が身についていないところがあると思われる。昨年同様、道徳教育を推進しているところであるが、全体で-4.1ポイントとなったものの、3年間の経年変化は小さい。学年ごとの開きもあまりなく、各学年でこの結果を今後の指導にいかしていく。

分析を踏まえた取組の改善

生徒同士、とくに後輩から先輩へのあいさつはよく見受けられる。教職員が率先垂範することで地域や保護者の方へも進んで挨拶する姿勢を養いたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・評価アンケート（進んで挨拶をしていますか。あなたは他人を思いやったり、親切にしていますか。地域の行事に参加していますか。ボランティアの積極的に参加していますか。など）を前後期で比較する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

今年度は6月から学校再開となり、子どもたちも例年とはちがう面が見られると思っていたが、いじめの取り組みや学校行事など学校の様子を見る限り、子どもたちに大きな変化はないようと思える。今後とも地域と学校が連携して子どもたちを見守りたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
子どもの挨拶が進んで自ら出来ている割合が 88%近く。学年によって異なるが、学年が上がるほど出来ている割合が減っている。思いやったり、親切にしているという項目は前期と比べて微増している。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>引き続き生徒同士、とくに後輩から先輩へのあいさつはよく見受けられた。まず教職員で現状を共通認識し、今後も教職員が率先垂範することで地域や保護者の方へも進んで挨拶する姿勢を養いたい。挨拶ができることが社会生活の中で人とのコミュニケーションの第一歩であることを今一度確認し、生徒会のあいさつ運動も今まで以上に活用し、挨拶が自然にできるようにしていきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>道徳教育を推進している成果として、生徒の道徳性がはぐくまれていることが見て取れる。また、コロナ禍でマスク越しのあいさつが徐々に定着していることが成果であった。これは生徒からの投げかけも効果的であったと考えられ、今後も続けていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今後もコロナ禍で人と人とのつながりが希薄になる部分もあったが、「挨拶はまず自分から」というように、地域で支えていきたい。</p>

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	
◇心の健康に重点を当てた取り組みを充実させる。 ◇食に関する指導を充実させる。 ◇生徒一人一人の発達段階に合わせた体力の向上を図る。	
具体的な取組	
	◇健康目標：生命を大切にし、生涯にわたって健康で人間性豊かに生きていく意欲や態度が身につくよう全領域で指導する。
	◇願いとする子どもの姿 〈保健教育〉 <ul style="list-style-type: none">・生涯を通じて心身共に健康でたくましく生きることのできる生徒・自分の心の安定を求め、的確な対応を考えられる生徒・自分の生活実態を理解し、健康な生活を送ることのできる生徒・健康診断の結果を受け入れ、自分の健康状態を把握し、自らの疾病の早期回復と完全治癒を実践できる生徒 〈食教育〉 <ul style="list-style-type: none">・バランスのとれた食生活が心身の健康に大切であることが理解できる生徒 〈体育教育〉・体を動かすことの楽しさ、利点が理解できる生徒
	◇性教育（各学年）、非行防止教室（1年）、防煙教室（2年）、心肺蘇生法講習（2年）、 薬物乱用防止教室（3年）、学年集会時に薬物乱用防止についての指導（夏休み前・冬休み前・適時）
(取組結果を検証する) 各種指標	
・評価アンケート（毎朝朝食をとっていますか。・充分睡眠をとっていますか。自分からすすんで体を	

動かしていますか。)

中間評価

各種指標結果	
生徒全体では前期に比べて+2.2 ポイントであり、とくに1年生で肯定的な回答が多かった。	
自己評価	分析（成果と課題） 睡眠については夜遅くまで携帯電話などを使っていて、しっかり寝られていない。
	分析を踏まえた取組の改善 生徒の変化に気づけるように気を配り、日ごろから家庭との連携を働きかけていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・評価アンケート（毎朝朝食をとっていますか。・充分睡眠をとっていますか。自分からすすんで体を動かしていますか。）を前後期で比較する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 携帯電話は良い面と良くない面がある。その良くない面の一つで遅くまで携帯電話を使用している状況は、親の姿勢にも課題がある。使い方について家庭への働きかけもさらに必要となると思う。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
生徒の評価は約2ポイント、教職員の評価は約10ポイント上昇している。保護者の評価は約4ポイント減少している。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 コロナ禍でゲーム依存の生徒が見受けられた。家庭で過ごす時間が増えていることが、規則正しい生活習慣に結びついていないこともあった。学校生活では規則正しい生活は実現できている。あらゆる場面で家庭への啓発が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 今後も生徒の変化に気づけるように気を配り、日ごろから家庭との連携を働きかけていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 大人がまず正しい時間の使い方を子どもたちに教えていく必要がある。そのためには、大人も自分を厳しくし見ていく必要がある。

(4) 学校独自の取組

重点目標
郷土愛を育み、確かな学力と豊かな人間性の育成する小中一貫教育の創造
具体的な取組
◇月1回と定例化した3校校長会をはじめ、各主任会を充実させる。

- ◇中学校区3校の合同研修会を開き、教科学習や生徒指導など分科会に分かれて小中学校の課題を共有する。学習指導・生徒指導等の情報交換にとどまらず、可能な限り教育課程、教育活動やその他の取組の共通化を図る。
- ◇3校の授業研究会に参加し、小学校教員と中学校教員が互いの授業を参観し事後研修会を行うことで、授業力の向上及び児童生徒理解につなげる。
- ◇6年生が中学校の授業及び部活動体験会に参加し、中学校生活の楽しさを感じとらせる。
- ◇大原野学園音楽会・小中連携合同清掃、中学生による6年生児童への学校紹介などを充実させ、児童生徒の交流を深める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・小中連携においての各主任会の内容検討
- ・主任会からのフィードバック
- ・全体把握

中間評価

各種指標結果

月1回の小中連携主任会を開催し、目標の共有を図った。中1で85.7%の生徒が「楽しく学校に通っている」と回答している。各主任会の記録を全教職員に発信している。年3回大原野学園通信を地域の全家庭に発行している。今年度も感染症対策を講じて、児童生徒の小中つながり会議を夏にもてた。

自己評価

分析（成果と課題）

小中連携を推進する中で共通の目標を設定し、より充実した小中一貫教育を進めていくことが課題である。児童生徒の小中つながり会議を今年も夏にもてた。

分析を踏まえた取組の改善

小中で問題点や課題を共有し9年間を通して子どもが成長していくよう今後も協力体制を維持していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

中1の生徒の楽しく学校に通っているという回答を前後期で比較する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

中1の生徒が先生と気軽に話せているのは、様子を見ていると思う。小学校から中学校へ上手につなげているように思える。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

中1の生徒の楽しく学校に通っているという回答を前後期で比較する。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

前期に比べて全体で+1.4ポイントであった。1年生では+2.4ポイントで中学校生活に適応してきたことが結果に出ている。2年生も+9.3ポイントでよい傾向となっている。小学校との連携は「小中つながり会議」という小学校の児童会役員と中学校の生徒会役員が集まって、各学校での取り組みを交流する場をもうけ、内容も充実してきている。

次年度も小中が合同でできる行事の内容を工夫していく。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>2年生については、前期に課題が見つかり、担任を中心に部活動の顧問なども関りをもつことで、良い方向にむいていく。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今後も地域としてバックアップしていきたい。</p>

(5) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を精選する。 ・会議を精選、効率化をはかる。 ・平日の電話応対時間を午後7時半まで、長期休業中は午後5時とし、以降は留守番電話に切り替える。 ・働き方改革に関する研修を行う。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得の状況（取得率など）

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>教職員の勤務時間は一昨年、昨年に比べると時間外が減少している。 年休取得の状況は夏季休暇中には積極的に取得が進んだ。</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>業務の進め方を工夫すること、そして、一人で業務を抱え込まないよう日頃より周知している。成績処理の時期、部活動の試合の時期などどうしても時間外勤務が増えてしまう。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>午後8時をめどに業務を終了して退勤することを意識する。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得の状況（取得率など）
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今年は7限の授業もあり、遅くまで先生方はよくやつてくれていると思う。 子どもたちに良い授業をするためにも先生方にしっかりと休養をとれるような取り組みを考えてほしい。</p>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
教職員の勤務時間は一昨年、昨年に比べると時間外が減少している。 年休取得の状況は冬季休業中に積極的に取得が進んだ。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得の状況 (取得率など) <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>業務の進め方を工夫すること、そして、一人で業務を抱え込まないよう日頃より周知している。成績処理の時期、部活動の試合の時期などどうしても時間外勤務が増えてしまう。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>先生方はよくやってくれていると思う。生徒に良い授業をするためにも先生方はしっかりと休養をとれるように取り組んでほしい。</p>